

## 学校としてどこから力をかけるのか、優先順位を決める 島本政志

全国フォーラムで学年別講座では学年崩壊の経験から学んだ「自分なりの学級づくり」をテーマに話をさせていただきました。その際に、「ここは折れなかったのか」という質問をいただきました。

私の場合は心が折れました。ただ人間としての他者を信じたい気持ちを最後までもつことが、辛うじてですが、できました。

ではなぜそんな気持ちで何とかいれたのか、学年の3人が病休や辞めずに続けられたかという一言でいえば「仲がよかった」ということが前提にあると思います。自分のクラスだけ持ち上げて、職場や保護者から高い評価を得ようなどという気持ちなどは全くありませんでした。

また学年崩壊などという状況に対して学校の管理職や他の学年の先生も可能な限りの意図的、計画的なサポートをしてくれたということもきわめて大きいです。

さて、本題の荒れた学年への対応です。

エスケープを繰り返し、授業妨害、時には暴言暴力を行う20名<sup>12</sup>への指導。原則は一人に絞って指導することです。加えて、指導のタイミングを見極め、敵対関係をつくらないようにし、集団の切り崩しを行う必要があります。

### 1. 分析し優先順位を決める。

教師の人数、総合的な「戦力」は限られています。もし、仮に学年に職場の教師が2倍いたらどうでしょうか。さらに、3倍いたらどうでしょうか。常に十人の教師で百人を見る。あるいは一クラス十人ずつにする、といった対応をすれば、とりあえずの「荒れ」は抑えることができると思います。しかし、現実はそのではありません。3クラスならば3人の教師で、せいぜい学年付きの先生を加えて4人か、多くて5人

程度の人数で基本的には何とか凌いでいくしかないのです。となると重要なことは

### ①現状分析と優先順位決める

ということになります。現状を分析してどこから学年として学校として、どこにどれだけの力をかけていくのか優先順位を決めなければならないのです。

勤務校の実態を分析すると、

- ①男子10名は何を言っても教室に上がらない(運動場、廊下等で遊んでいる)。ただし核となる子が校舎に入ると、一緒に入る。
- ②女子10名はのろのろとでも教室のある4階に上がる。ただし不登校の荒れている子が学校に登校し、廊下から手招きなどすると、授業中でも抜け出す。

女子は非常に動きが緩慢であるものの何とか指示に従う場面が比較的多いので、より課題があると思われる男子グループから着手することに管理職をまじえて話し合い、学校として対応することに決まりました。

学校として対応するから、保護者にも学校としての方針を伝えることができます。

仮にどこから対応していくか、というの

をどこかのクラスの担任が一人で決め実行していくと「なぜ、○組の○○先生は〇〇の対応をしてくれるのに、□□先生はしないのだ!」などと保護者から突っ込まれ、学年全体のパフォーマンスが低下するからです。

また、時として自分のクラスの子に担任としては心が痛むような対応をしなければならぬ時もありました。そんなときも学校としての方針なのだと思います、ある種、教師として苦しむ割合が、ほんの少しですが軽くなります。教師が自分を苦しまなくて済むための方法なのか?と思われるかもしれませんが、これが私が体験した実際の感覚です。

語弊があるかもしれませんが、「学校としての方針なのだ」と言う言葉は自分で思っても人から言われても、「私は教師なのだろうか」と自分自身の存在を疑いだした私の心をぎりぎりのところで支えてくれた(誤魔化してくれた)一つです。

## 2. 荒れた子どもへの対応

原則は

複数の子を相手に指導を開始しない。

ということですが。

例えば、複数の内の一人に対して「教室に入りなさい」と言います。

すると、「抜け出してるの、オレだけちゃうやろが!あいつらから言えよ。何で俺やらやねんな?理由を言えよ。おいおい、差別ちやうんか?教師が差別していいんかよ!」などと、論点をずらしてきます。

周りも「お前なんやねんな?差別教師か。」「わかった、わかった、後で入ったるわ。1時間後な。」「あっち行こうぜ」などと教師を邪魔してきます。複数の相手にしても、ほとんど指導できない状態になります。それどころか、教師が子どもに揶揄され、場合によっては暴言暴力の対象にもなってしまうのです。

廊下でそのよう負けている姿を何度も周囲にさらしてしまうと、「あ、この教師ならいける」と思われてしまいます。そして、

かろうじて荒れていない(素振りをしていない)子どもも荒れている側に加勢するのです。

中間層の子ども教師に失望し支持しなくなっていく。結果、更なる指導困難に陥るようになります。ポイントは、

### ①指導のタイミングを見極める。

複数の相手に一人で指導をしなければならぬ場合もある。しかし、命や人権に関わるような問題でなく、授業を妨害する行為でなければ、簡単な声掛けだけをして、やり過ぎす場合もある。

### ②敵対関係をつくらない。

早い時期から敵対関係をつくってはいけません。長期戦に備える。1学期の最初から、怒鳴らない。無理に指導しても反動が大きい。話しかけたり、ほんのちよつとでも頑張っていることを見つけ褒めたりし、関係をつくる。

### ③切り崩しを行い、集団の人数を減らす。

荒れた集団の人数を減らしていく。大きな戦いをすぐに始めない。荒れたグループの中でも与しやすい子から、声をかけ、話し合いをし、諭していく。